2015. 2.20

中途障害者のリハビリテーションと地域移行支援
－ 横浜市総合リハセンターでの実践 高次脳機能障害の方へのプログラムより －

横浜市総合リハビリテーションセンター
地域リハビリテーション部
佐々木　葉子

自己紹介

昭和61年7月～平成12年3月

横浜市総合ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ設立準備室を経て、横浜市ﾘﾊｾﾝﾀｰ　身体障害者更生施設

＊成人の入所施設です

平成12年4月～平成17年3月

中山福祉機器支援ｾﾝﾀｰ・反町福祉機器支援ｾﾝﾀｰ（在宅リハサービス）

＊子どもから高齢者の方まで色々なお宅や地域の関係機関を訪問しました

平成17年4月～平成21年3月

横浜市北部地域療育ｾﾝﾀｰ

＊沢山のお子さん・保護者の方と出会うことのできた4年間でした！

平成21年4月～平成24年3月

横浜市総合ﾘﾊｾﾝﾀｰ　自立支援部（生活支援課・就労支援課）

平成24年4月～

横浜リハセンター地域リハ部（相談窓口・在宅ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ事業・研究開発）

＊子どもから成人の方まで、広く関わらせていただいています.

本日の内容

高次脳機能障害の方の地域生活（移行）支援に向けて

・地域との連携について
－入口・出口のサンドイッチ方式－（バトンタッチの連携）

・ 横浜市総合リハセンターでの高次脳機能障害の方へのプログラムの取り組み（協働による連携）

→ サンドイッチの中身です！

についてお話しいたします。

横浜リハセンターの紹介（機能）

障害者スポーツ文化センター
横浜ラポール

総合相談

入院施設
訓練部門（外来）

地域リハ部門

訪問により、
福祉用具・介助
方法等助言

障害者支援施設
就労支援施設

目標とする地域生活
に向けた、社会リハ・
職業リハの支援

研究開発部門

福祉機器や住環境
整備の研究開発と
実践

高次脳機能障害
支援センター

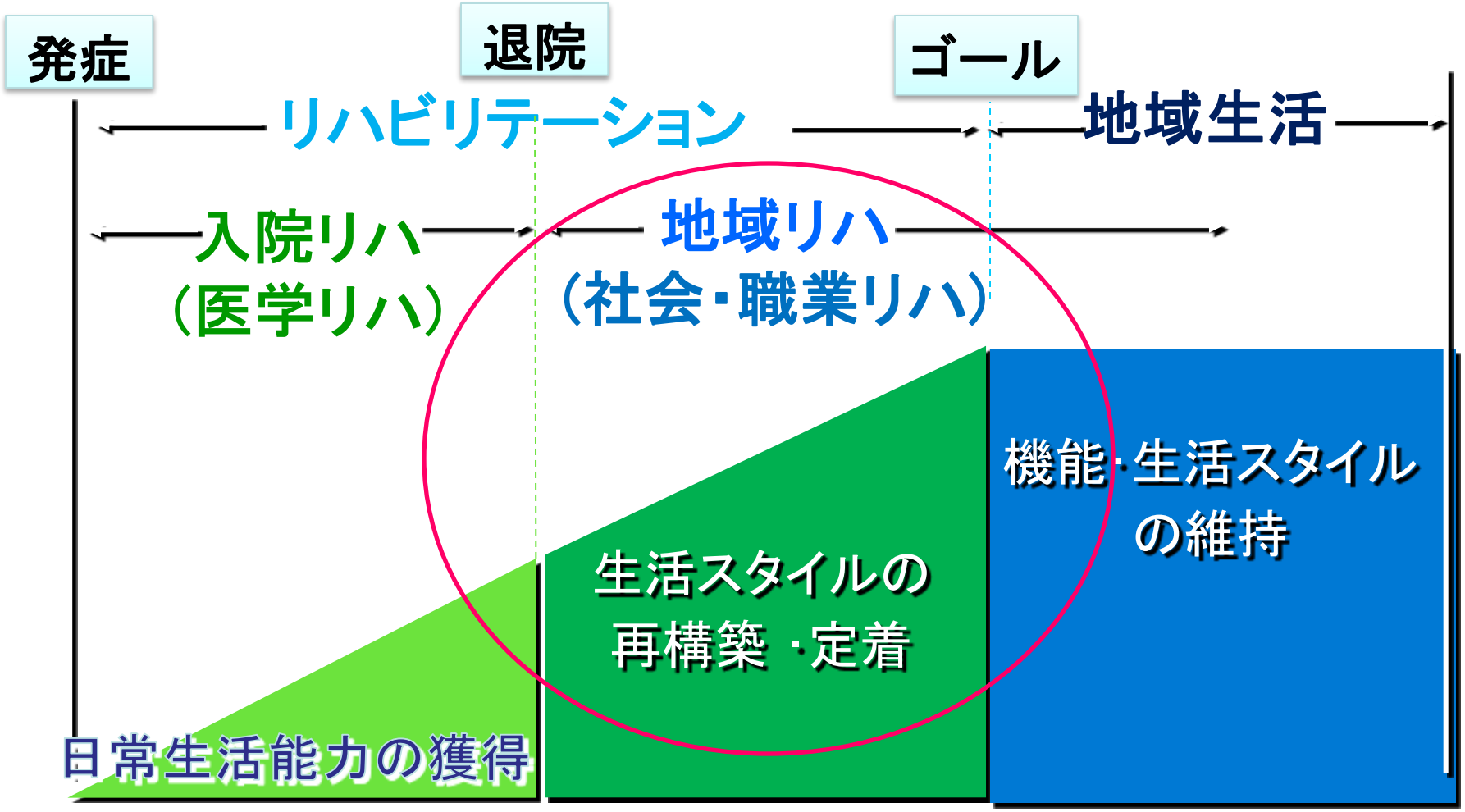
相談支援
高次脳機能障害の見たて
とサービス調整・連携
地域生活・活動の支援

療育部門

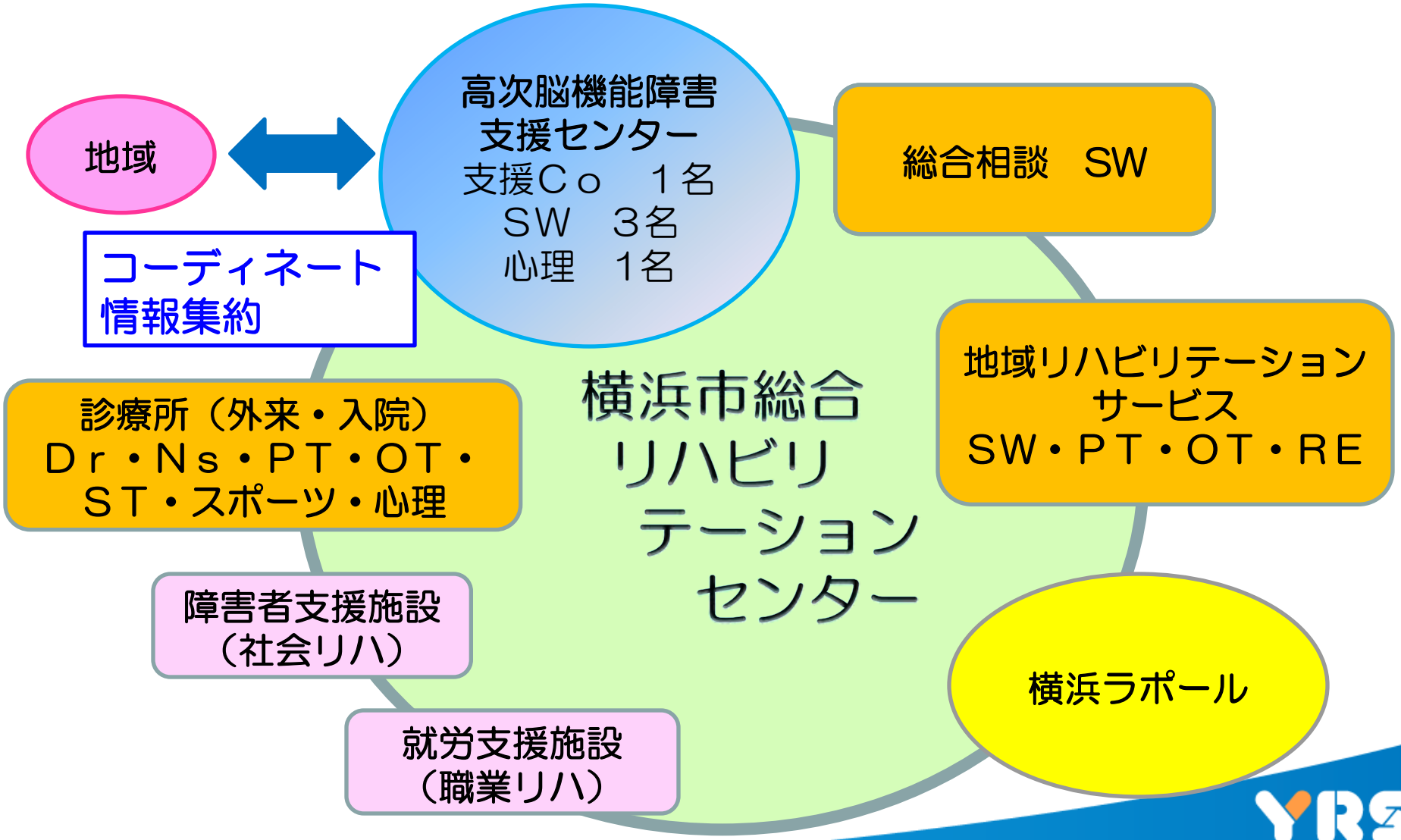
個別・集団療育
保護者支援
地域支援

地域の関係機関・社会資源等と連携し、総合的なリハサービスを行う施設です。

リハセンターが担う役割



高次脳機能障害支援センターの位置づけ



高次脳障害支援センターの役割

・相談支援（電話・面談・訪問など）

本人・家族・ｹｱﾏﾈｼﾞｬｰ・
区ｹｰｽﾜｰｶｰ、保健師、病院ｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ、
中途障害者地域活動センター　etc･･･

・見立てと支援

問題の整理とサービス（プログラム）調整・連携

・地域生活・活動の支援

生活の場、活動の場（中途障害者地域活動ｾﾝﾀｰ等）
の定着支援、環境設定

中途障害者地域市活動センターを中心とした市内の支援システム

中途障害者地域活動センター（中活）との連携による支援

平成3年に港北区内に設置され、事業が開始。
以降、各区に設置され、現在は18ヶ所となった。

≪対象者≫ 脳血管疾患による後遺症のある方
おおむね40才～64才までの方
原則、自力通所できる方
ADLの介助、支援の必要のない方
≪活動時間≫ 月曜～金曜　10:00～15:30
≪利用料金≫　1000円～2000円／月
≪特徴≫ 区役所の保健師が窓口となっている

医療と福祉の連携による支援（その１）
ー バトンタッチによる連携 ー

発症（受傷）からスムーズに、
ご本人・家族の生活の再構築を
支援するため …

★ サンドイッチ方式！

・入口である、急性期・回復期病床での医学リハからのスムーズな連携
・出口である地域の社会資源の場への支援と連携

リハビリテーションの流れ（横浜リハセンターの位置づけ）

急性期
救急医療
リハビリテーション

→

回復期
リハビリテーション
回復期リハ病棟

→

維持期（生活期）
リハビリテーション

医学リハビリテーション

入口

リハセンター中途障害部門

医学リハビリテーション
＋
生活の再構築のための
リハビリテーション

社会参加

・復職（就労）
・地域の関係
機関・社会資源

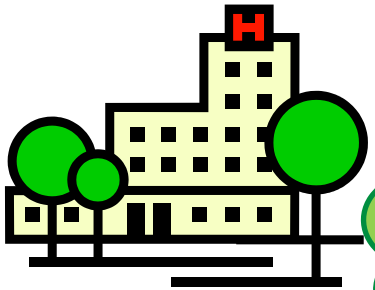
出口

医学＋社会・職業・地域リハビリテーション

地域移行の流れ（現状の傾向）

急性期 病院

回復期病棟等



横浜リハセンター
（生活・就労支援等）

自宅に戻っては
見たものの、これ
で良かったのだろ
うか・・・？！

地域（自宅）

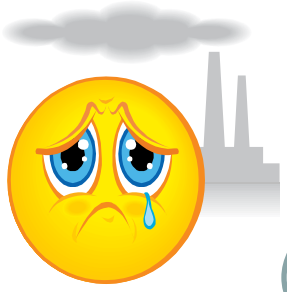
社会参加
（就労・地域の社会資源）

退院後本人・家族・支援者が悩むことは？

脳卒中の方の退院後元気が出ない理由？　By大田仁史氏

主体性を持てと
言われても・・・

生活のはりや
目標が見えにくい

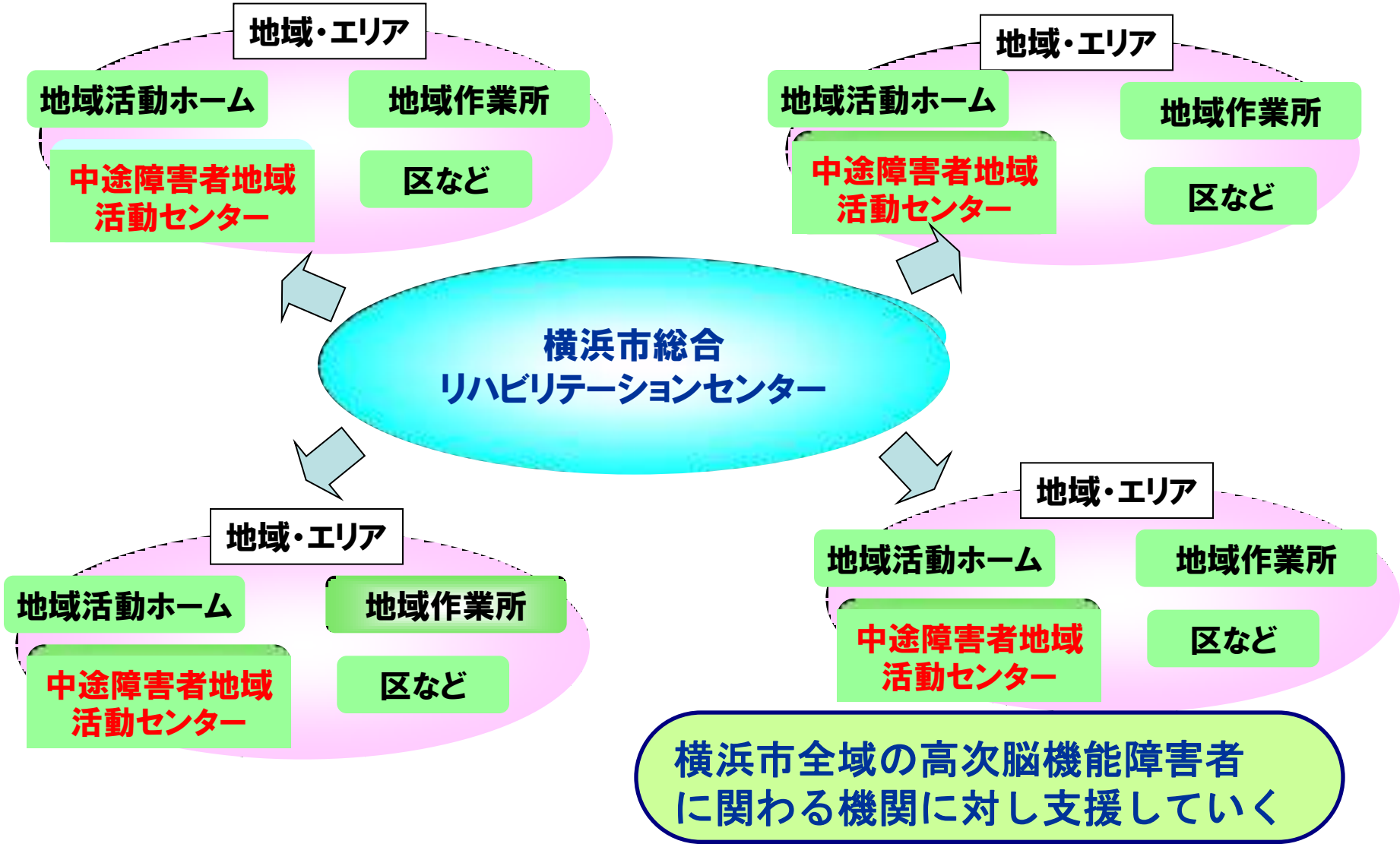


そんな中での
無力感

自分の障害の
予後が不安

家族・地域の中でも
何となく孤立

地域との連携（支援）
（横浜モデル）



中活（出口のひとつである活動の場）への支援

1. 巡回訪問（定期訪問）

→区ごとに担当者を決めて訪問実施

毎月１回（半日）
職員との相談・カンファ
利用者との面談など

2. 専門相談支援事業

→中活利用者以外の相談にも応じる

H22.9に市内３区で開始
毎月2回の相談日を設定
H25年度の相談件数は**126件**
現在は６区で実施している

3. リハビリ教室や職員研修会への職員派遣

→麻痺のない（少ない）利用者が増えている

臨床心理士・ＯＴ・
支援コーディネーター

医療と福祉の連携による支援（その２）

ー 協働によるサービス（プログラム）の提供 ー

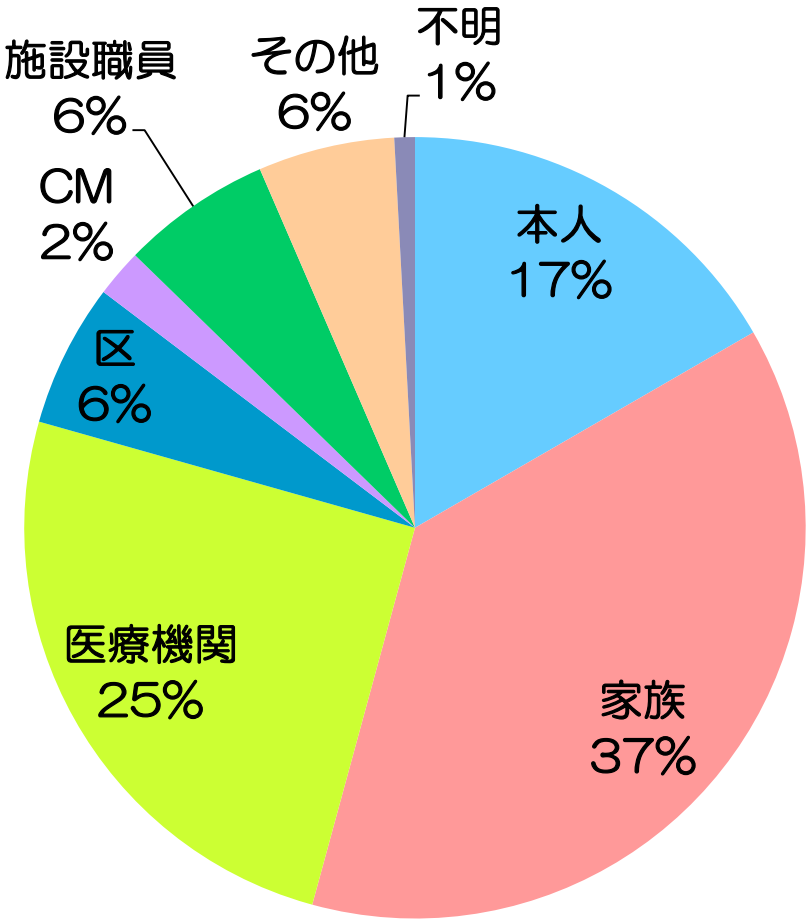
ご本人･家族の障害の理解や
社会参加への支援のため…

★ 高次脳機能障害の方を支えるサービス（プログラム）
…サンドイッチの中身です

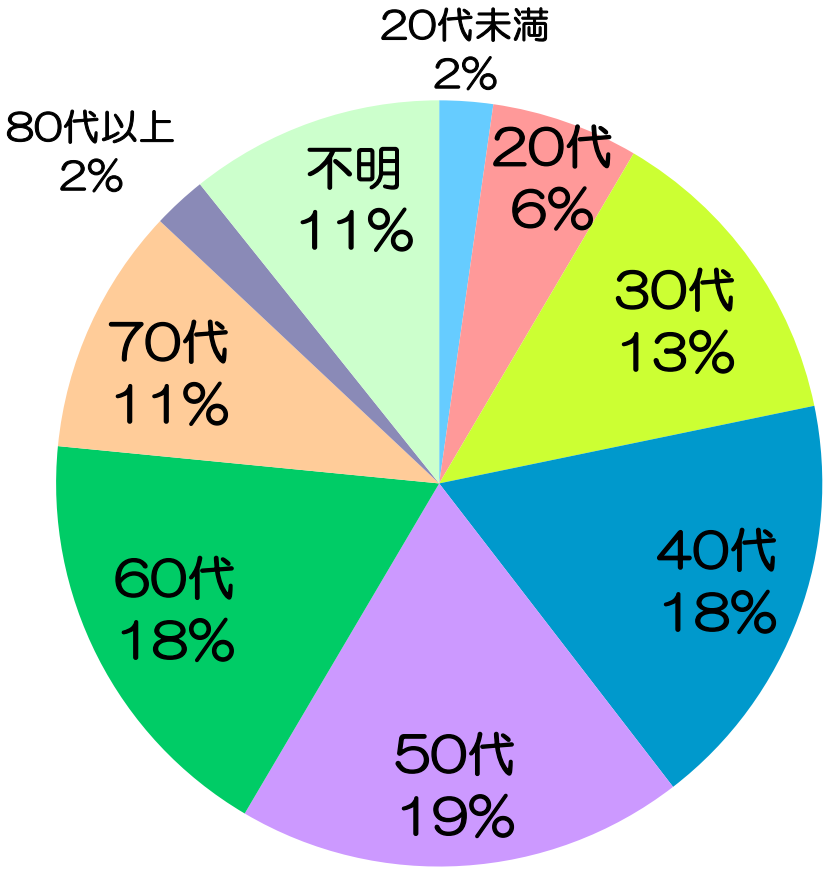
ご本人の気づき 、周囲の理解に向けて、
医療、社会リハ･職業リハ（福祉）の協働による
サービス（プログラム）を！

高次脳機能障害支援センターへの相談

相談者



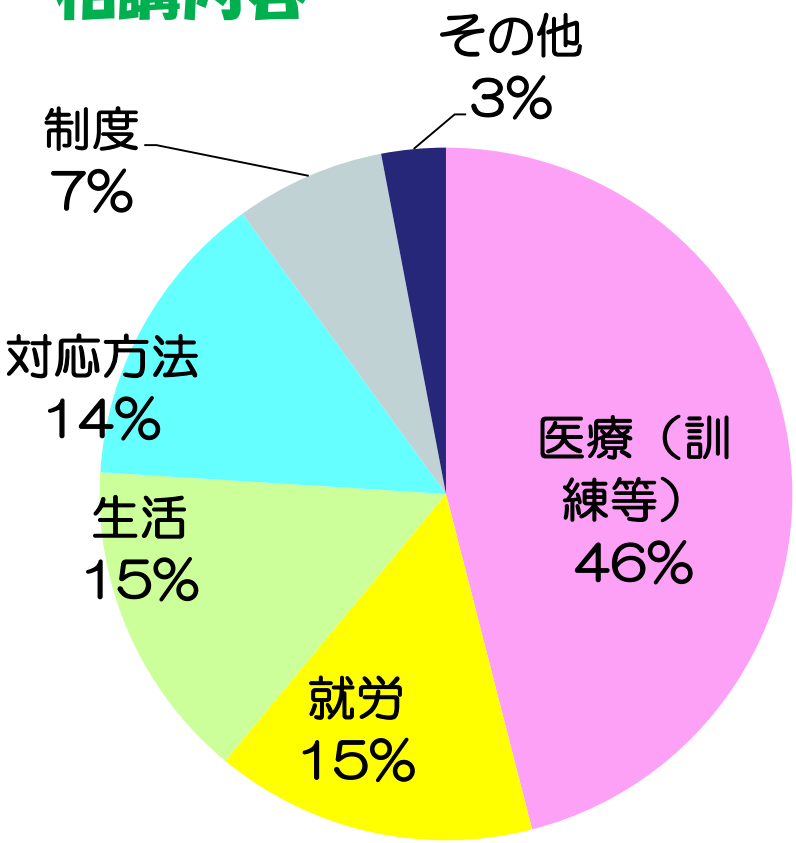
年齢



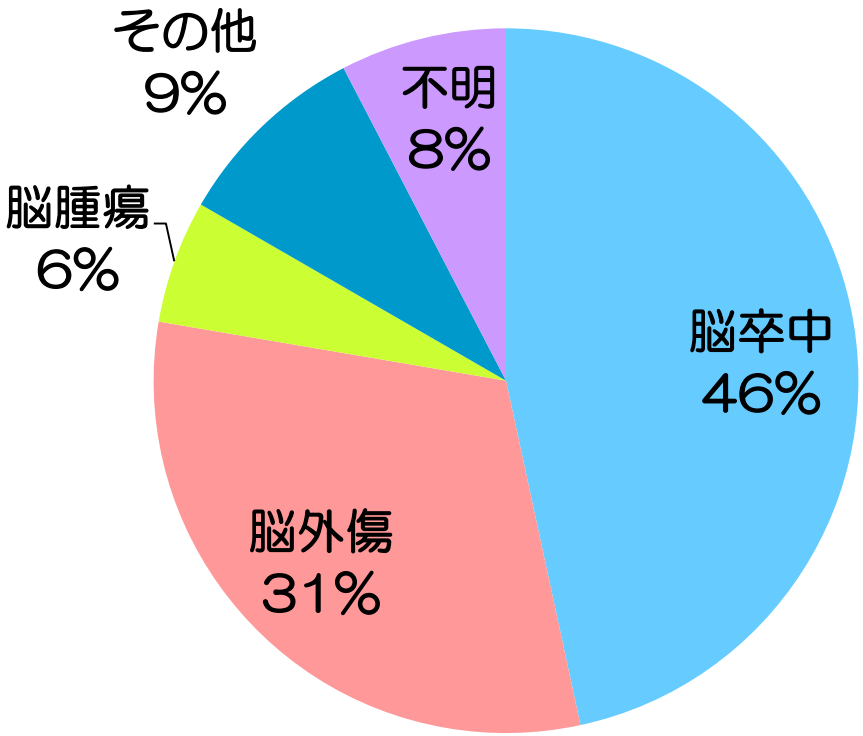
相談受付票を作成した３５４名を対象（H25年度）

高次脳機能障害支援センターへの相談

相講内容



原因疾患



★ 医療（訓練）の相談は、多くの場合、
その先に 就労（復職）・社会参加へのニーズがある

多くの方がこんな悩みやニーズを抱えています

- 社会経験のある40代・50代の方は、復職・新規での就職を希望し、
- 社会経験の少ない、若年の方は、この先の進路に悩んでいます.

課題として、目に見えない高次脳機能障害
(注意・記憶・遂行機能・易疲労etc)を
本人・周囲（家族・職場等）とも、
理解(気づき)が十分でない場合が見られます

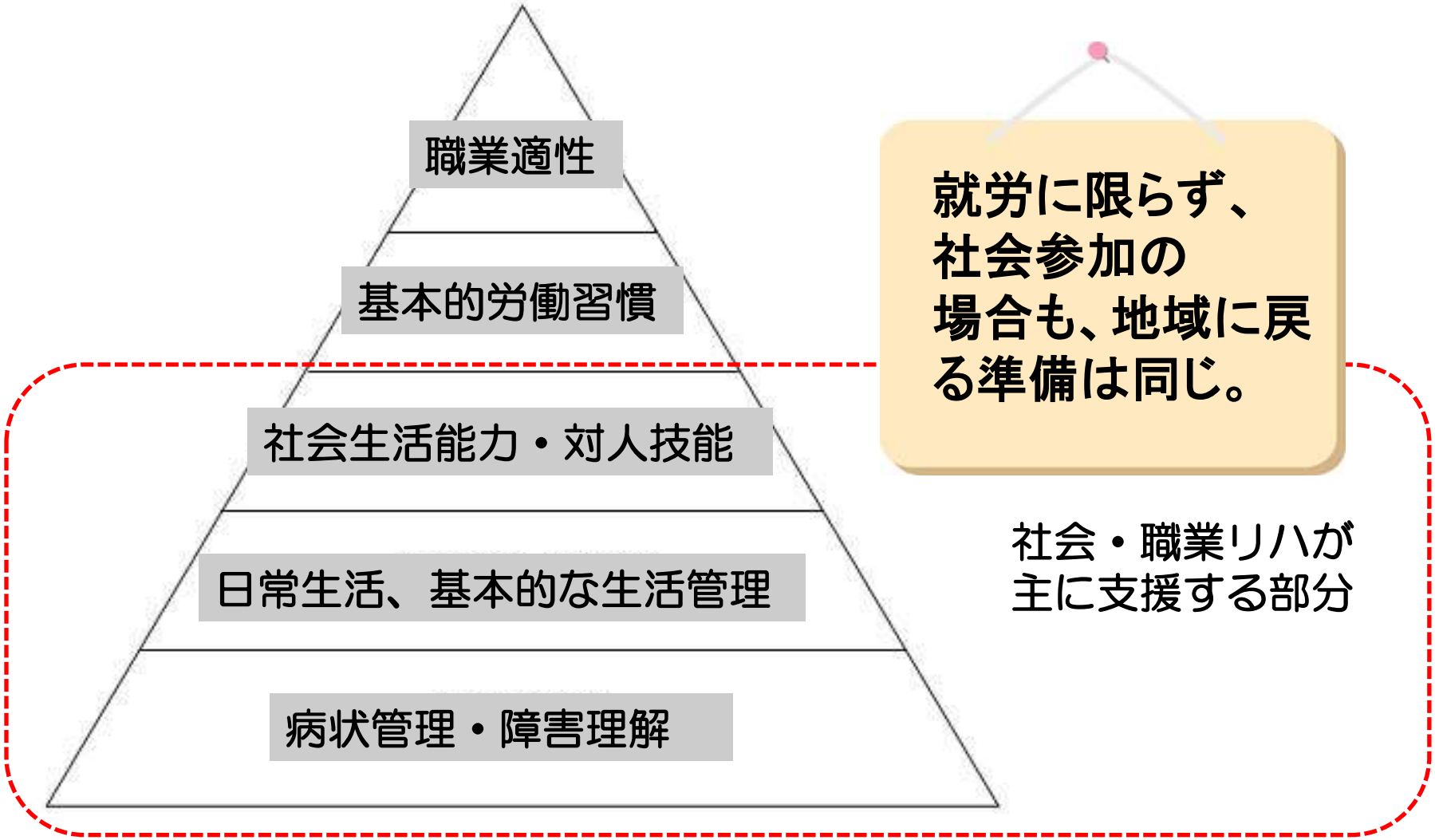
本人の心理状態（二次的症状）と支援のポイント

- **イライラ**　なんでだろう　？
- **混乱**　どうなってしまったのだろう ？！
- **不安**　今まで出来ていたことが来ない…
- **否認**　そんなはずはない！
- **うつ的感情**　もうどうでもいい…
- **被害的感情**　周りのせい？！…

⇩

障害の気づきと、不全感・孤立感など精神的な不安を支える支援（サービス・プログラム）が重要！

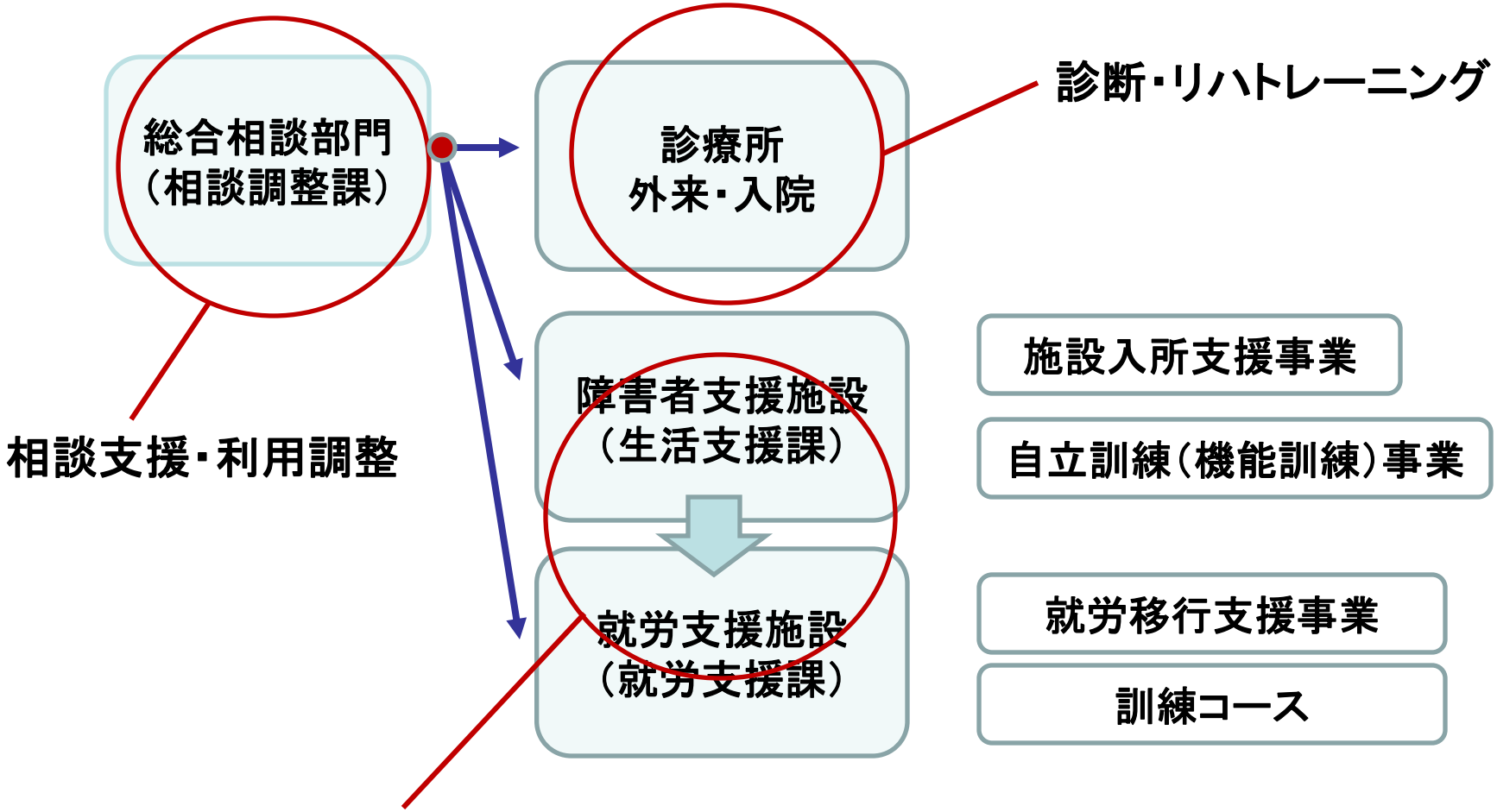
提供するサービス（プログラム）の考え方



職業準備性のピラミッド　ー働くため・働き続けるための三角形ー

独立行政法人 高齢・障害者・求職者雇用支援機構

横浜市総合リハビリテーションセンター
中途障害者支援（自立支援部）



リハ計画（生活プラン）の作成→サービス（プログラム）の実施

障害者支援施設　利用者の状況

・入所前 ： 回復期リハ病院、特別支援学校、在宅など

H25年度内在籍者：50人

平均年齢：43.3歳

平均利用期間：6.0か月

身障手帳：1・2級の所持者が全体の92%

＜原因疾患＞

① 脳血管疾患	41人	82%
② 頭部外傷	2人	4%
③ 脊髄疾患・損傷	2人	4%
④ 脳性麻痺	2人	4%
⑤ その他	3人	6%

障害者支援施設(生活支援課)のサービス

その人らしい
暮らしを
めざして

社会生活力プログラムは、
生活支援員が行う体験重視
のプログラムです。
機能訓練室での基本的な訓
練を、より実際の場面に活
かしていきます。

ケアマネジャー、訪問看護師、
福祉保健センターなどとの連携、
フォローアップ。

地域に
つなぐ

生活基盤を
整える

医師の診断、評価など
専門的な観点からアセス
メントをし、ご本人ご家
族に現在の状況を知って
いただきます。
個別リハ計画を立てます。

応用

社会生活力プログラム
力をつける

外出・家事プログラム、
健康・栄養管理プログラム。
金銭管理・
グループディスカッション

経済的基盤や介護保険の利用、
住宅の整備、その他障害福祉
サービスの手続きの支援。

自分の状態を
知る

基礎

機能訓練事業;
理学療法(PT)、作業療法(OT)、
言語訓練(ST)、臨床心理、
体育、健康相談(看護師)
栄養相談(栄養士)、職能評価・実習

YRS
ユアーズ

障害者支援施設（生活支援課）でのプログラム

グループディスカッション

　地域生活に向けて必要な健康・栄養の知識や、社会資源の活用方法など、話し合いにより学ぶ。

グループディスカッション

- 地域生活に向けて必要な健康・栄養の知識や、社会資源の活用方法などについて話し合いを通して学ぶプログラム。考え方は職業準備性のピラミッドに基づく。
- 3人～6人のクローズドグループ。
- 週1回・1時間。
- 参加者の状況に応じ6～8回を1クールとする。（ 2か月程度 ）
- 利用者は少しずつ入れ替わりながら繰り返し参加。

回数	テーマ	内　容	ファシリテーター
第1回	オリエンテーション	自己紹介、ルールの説明など	
第2回	健康管理	脳血管疾患の再発予防、生活習慣病・熱中症、生活リズムについて	看護師
第3回	栄養管理	減塩・減量食について、外食・惣菜の活用方法、食生活への助言、など	栄養士
第4回	高次脳機能障害とは、等	高次脳機能障害について、対人関係・ストレスコーピング、など	臨床心理士
第5回	社会参加・社会資源　等	生活リズムと社会参加、退所後に活用できる社会資源について、退所者の話、など	生活支援員
第6回	振り返り	お茶会（振り返り）	

より分かり易く（障害者支援施設の場面で）

By 生活支援課　熊谷

グループディスカッションで大切にしていること！

- 専門家からの講義よりも当事者の話し合いを重視
- 当事者の前向きさ、経験から語られる生活の知恵が説得力となる

↓

効果測定は？　「言葉（行動）の変化」や
「生活（人生）の選択の変化」

今力を注いでいる より 横断的プログラムの試行

【 高次脳機能障害対応プログラム】

- 生活プランに向けての方向性（施設利用など）がまだ明確でない、または地域生活に戻ったが、今少しステップアップしたいなどの状況にある方を対象に、社会参加に向けた新たなプログラムを試行しています。

⇨ 社会リハ（生活支援）・職業リハ（就労支援）を軸に、医学リハ（心理・OT等）とより 連携（協働）したプログラム

＊週2回　3か月　1クールからスタート

働くための基礎づくりプログラム（テーマの例）

働くことを目標にリハビリをしている方のためのプログラムです。

＜例えば、こんなことを考えていませんか？＞

体力に
自信がないなぁ。

仕事をしたいけど
うまくできるかな？

コミュニケーション
に自信がないなぁ。

病気のことが
心配だなぁ。

作業（仕事）は
スムースにできるかな？

生活に役立つサービス
や制度を知りたいなぁ。

基本スケジュールの例

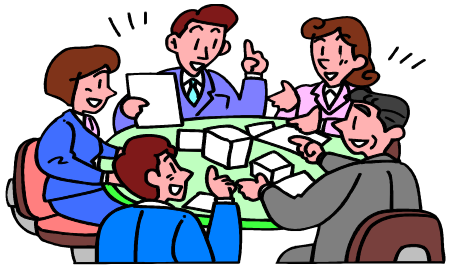
火曜日		金曜日	
時間	内容	時間	内容
10:00～10:15	朝礼 ＜就労支援課＞	10:00～10:15	朝礼 ＜生活支援課＞
10:15～11:00	作業体験 ＜就労支援課＞	10:15～11:00	作業体験 ＜生活支援課＞
11:00～11:15	休憩	11:00～11:15	休憩
11:15～12:00	講座（生活リズム・健康・仕事） ＜就労・生活支援課＞	11:15～12:00	講座の予習 ＜３階＞
12:00～13:00	お昼休み	12:00～13:00	お昼休み
13:00～13:45	グループミーティング ＜就労・生活支援課＞	13:00～13:45	作業体験 ＜就労支援課＞
13:45～14:00	終礼 ＜就労支援課＞	13:45～14:00	終礼 ＜就労支援課＞

講座はこんな内容

「仕事講座」

・復職にあたっての会社との調整について

・復職・新規就労に関連した制度について（障害者雇用など）



「生活講座」

・生活リズム、健康・栄養管理（食事）について

・経済保障 （障害年金・傷病手当 など）

・地域での相談先について

参加者の感想と成果

・経済保障の話が聞けて、無理に復職しなくても良いかなと思うようになった。（自己理解）
・ 電話対応は難しい、PCは苦手、でも軽作業はできるということが分かった。（自己理解）
・ 自分の高次脳機能障害 を実感し、復職する際、働き方を考える必要があると思った。（高次脳機能障害の理解 ＋ 自己理解）
・ 目標としていた復職前の生活リズム作りが出来てきた。（自己理解）

⇩

・ グループでの作業体験・ディスカッションを通し、自分の能力や得手不得手に対する気づきが生まれ、
・ 講座での話、発表し合う活動を通して、社会参加（就労）に必要 な知識を皆で学ぶことができた.

これからの社会参加（就労）に対するイメージを作ることを目標

次のステップ ⇒ 基本スケジュール ＊より医療・福祉（職業・社会）と連携して実施

火曜日		水曜日		金曜日	
時間	内容	時間	内容	時間	内容
10:00～10:15	朝礼	10:00～10:15	朝礼	10:00～10:15	朝礼
10:15～11:00	作業	10:15～11:00	作業	10:15～11:00	作業
11:00～11:15	休憩	11:00～11:15	休憩	11:00～11:15	休憩
11:15～12:00	仕事講座	11:15～12:00	体育プログラム	11:15～12:00	生活・健康講座
12:00～13:00	お昼休み	12:00～13:00	お昼休み	12:00～13:00	お昼休み
13:00～13:45	作業	13:00～14:30	OTプログラム	13:00～13:45	作業
13:45～14:00	終礼			13:45～14:00	終礼
		14:30～14:45	終礼		

横浜市総合リハビリテーションセンター
就労支援施設（就労支援課）

将来的に仕事をしたいが、
どのような仕事が適してい
るのか知りたい…

復職をしたいが、会
社との調整など、どの
ように進めたらいいの
か教えてほしい…

社会参加として、何か作業
的な活動の場に通いたい…

多くの方が高次脳機能障害を有する

原因疾患（平成２５年度利用者：７４人）

①脳出血	20人	27.0%	脳卒中（37人）50%
②脳梗塞	11人	14.5%	
③くも膜下出血	6人	0.8%	
④脳外傷	15人	20.0%	
⑤脳腫瘍	5人	0.6%	
⑥その他	17人	20.0%	

（発達障害・知的障害他）

就労支援課でのプログラム（取り組み）

模擬会議

　グループでひとつの議題を想定し、実際に会議を摸して行う。復職を目指される方の参加が多い。

見えない障害に対しての「模擬会議」

- 職業リハを軸として、医療との連携のプログラム
- ５，６人で会議を行う。
- 会議の場で特に現れやすい高次脳機能障害（注意障害、記憶障害など）に気づくことができる。
- 気づいた高次脳機能障害に対する代償手段の活用をアドバイスする。
- 特に復職をめざす方に有効。
- 臨床心理士などのスタッフとの協働。

会議の場で現れる状況

１　話がかみあわない

２　自己関連発話の増加
（self referential speech）

３　社会的認知の低下

フィードバックの進め方

１　途中での介入（毎回）
２　会議後のフィードバック（毎回）
３　ビデオを見てのフィードバック（中間と終了時）
４　個別の心理やSTでのフィードバック（必要時）

⇧

１　信頼関係の中での助言
２　支持的な雰囲気の中で行う
３　代償手段を提案する
４　強みも大切に扱う
５　うつ的気分などに配慮する（特に臨床心理士と協働）

参加者の感想と成果

・ 自覚していなかった注意もれがあることに、
早い段階で気づくことができた。　（自己理解）

・自分と同世代で同様の病気・障害のある人と話す
機会がもて心強かった。　（仲間意識・モデリング）

・苦手になったことをカバーする必要（例：メモを取る）
に気づくことができた。

（代償手段の活用）

医療と福祉の連携によるグループプログラム
ーねらいと大切にしていることー

■ ねらいは

① 障害の体験的気づきの促進

② 答えは当事者の中にあるというスタッフの認識

①②により、生活（人生）の再設計のイメージ化！

■ 大切にしていること

・就労（復職）はあくまでも社会参加の延長線上であり、
ひとり一人に即した社会参加を！

・グループプログラムは
ひとり一人の気持ちを支えるという役割があるということ

医学リハ・社会リハ・職業リハ（医療と福祉）の連携により…

その人らしい暮らし

障害のある自分
として、地域生活を再設計する
ため

一人ひとりに合った社会参
加を目指し

気づき・主体性を
大切に・・・

スモールステップで
本人・家族と目標を共有